

藤枝市「道の駅(仮)せとや」

基本構想

令和3年3月



藤枝市
Fujieda City

目 次

1. はじめに	1
2. 整備予定地	5
3. 市北部地域の現況	6
4. 道の駅整備の目的	8
5. 道の駅整備コンセプト	9
6. 道の駅導入機能の方針と整備施設	14
7. 道の駅候補地エリア	20
8. 道の駅概要	21
9. 道の駅の整備・管理運営手法	22

1. はじめに

（１）位置及び地勢

藤枝市（以下、本市という）は、静岡県のほぼ中央に位置し、東西約 16 km、南北約 22km、総面積は 194.06 km²を有しており北部東部は静岡市、西部は島田市、南部は焼津市に隣接しています。

地勢は、市の北部は赤石山系の南縁に接する森林地帯で、高根山から発する瀬戸川が市内を南北に流れ、駿河湾に注いでいます。市の中央部は、北部からつながる丘陵地とそこから広がる平坦地であり、南部にかけて市街地が形成されています。



（２）広域交通ネットワーク

本市は、JR東海道本線や東名高速道路、新東名高速道路、国道1号バイパスなどが市内を東西に貫き、東海道ベルト地帯の交通の要衝となっています。また、富士山静岡空港に隣接し、藤枝駅と空港を結ぶバス路線が運行しています。

また、市北部地域には、新東名高速道路の藤枝岡部ICがあり、国道1号藤枝バイパスが横断していることから、広域アクセスの良さを活かした広域観光周遊ルートの形成や都市間ネットワークの充実などにより、更なる活力と賑わいの創出が期待されています。



（３）本市の中山間（北部）地域

本内の7割を占める中山間地域では、豊かな自然に恵まれた美しい景観が広がり、農林業の場としてお茶やミカン、しいたけなどが生産されています。こうした環境を活かした拠点が各エリアに立地し、食文化の創出や芸術・余暇・スポーツ活動などが展開され、観光・レジャースポット、地域住民の働く場、住民の拠り所となっています。

また、中山間地域でありながら、中心市街地から20分程度でアクセスが可能であることから、豊富な地域資源を活かし、農山村と都市住民の交流と移住・定住による賑わいと活力ある地域づくりを進めています。

■（市北部地域）



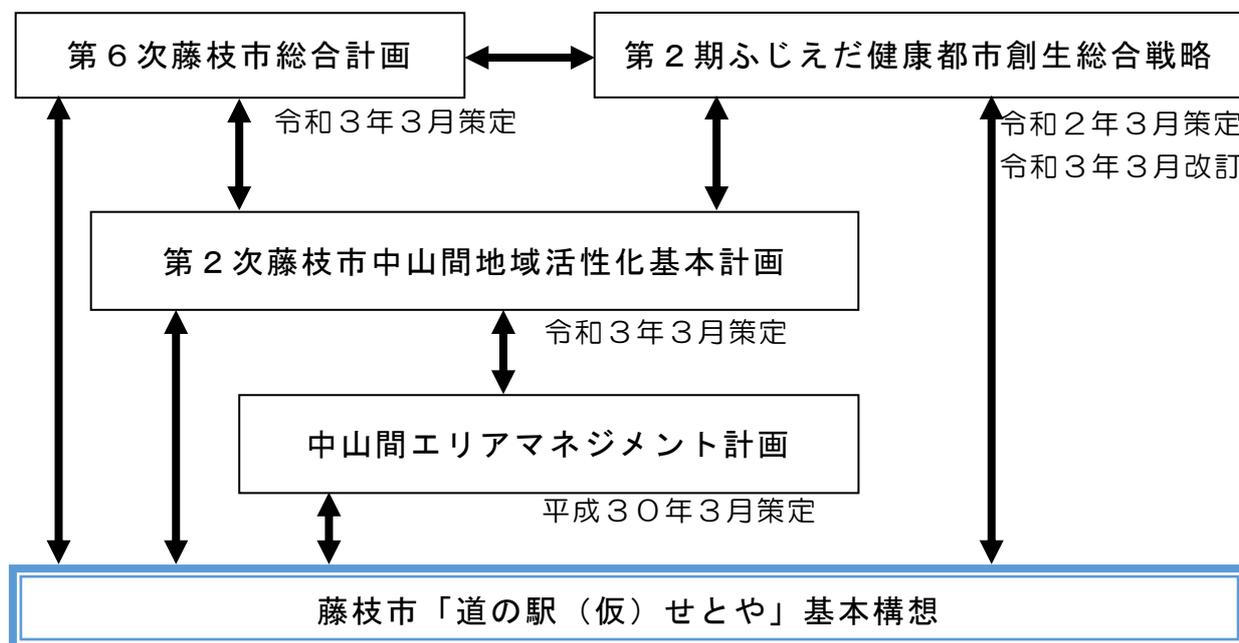
瀬戸谷地区（藤の瀬会館周辺）

（４）上位計画における道の駅整備の位置付け

2030年度を目標年次とする第6次藤枝市総合計画では、「“幸せになるまち” 藤枝づくり ～まち・自然・文化と共生 未来へ飛躍～」を基本理念とし、基本目標である「魅力と活力、持続力ある地域がつながる藤枝づくり」の実現を図るため、その主要施策のひとつに「観光・交流拠点「道の駅」づくりの推進」を位置付けています。

また、「第2期ふじえだ健康都市創生総合戦略」では、「“まち”と“ひと”が元気な健康都市・藤枝」を目指すべき姿とし、基本方針に掲げる「コンパクト+ネットワークのまちを創る」及び「ひとの流れを創る」の中で、「道の駅整備事業」を位置付けています。

これら上位計画を踏まえ、第2次藤枝市中山間地域活性化基本計画では、「陶芸」を魅力ある地域資源として活用し、交流人口及び関係人口、さらには移住人口の拡大を図る「陶芸村構想」を実現するため、その拠点施設となる陶芸体験施設と「道の駅」を瀬戸谷温泉ゆらく周辺に複合的に整備するとともに、また島田市川根地域と連携する「天空の回廊」事業の展開により、両市の多彩な地域資源を活かしたまちむら交流を推進し、整備する交流拠点施設を入り口とした県中部地域北部エリアの観光地を周遊するルートづくりの必要性を位置付けています。



本基本構想では、本市における上位計画や関連計画等を踏まえ、道の駅整備の目的及び整備コンセプト、施設機能・施設の考え方、整備候補地、整備・管理運営手法について整理します。

(5) 藤枝版ローカルSDGsの推進

国際社会の共通目標であるSDGsに対する地方自治体として取組姿勢を示した本市独自の「藤枝版ローカルSDGs」を本基本構想の実現を通じて達成していきます。

【藤枝版ローカルSDGsの17の目標のうち本基本構想に関連の深いもの】

1 誰もが自立して暮らせるまちをつくる	2 食の安全を守り、持続可能な農業をつくる	3 誰もが健康で元気なまちをつくる	4 質の高い教育と学び続けられる環境をつくる	6 安全・安心な水を提供する	8 力強い地域産業と多様な働き方を生み出す	11 災害に強く快適な居住環境をつくる
14 河川の水質向上と廃プラ対策を推進する	15 豊かな自然を守り共生するまちをつくる	17 あらゆる主体が協働・協奏するまちをつくる				

【藤枝版ローカルSDGs】



2. 整備予定地

本市では市北部地域の喫緊の課題に対し、農業をはじめとした「地域産業の活性化」、豊富な観光資源を活かした「地域間の交流の活性化」、地域の持続性を確保する「地域の担い手の育成」などを目的とし、既存の「道の駅」のさらなる有効活用を図るとともに新たな道の駅の整備を進め、持続可能な北部地域を創出するため「道の駅全体構想」を策定します。

全体構想では「山あいを彩るおもてなし共創拠点網の形成」を基本理念とし、北部地域の特性や既存の「道の駅」、パーキングエリアの位置・機能に配慮して、主要地方道藤枝黒俣線沿線にある健康福祉拠点「瀬戸谷温泉ゆらく」と陶芸村構想の拠点施設整備と合わせて一体的に「道の駅」を整備することにより、道路休憩施設としてだけではなく、農産物など地場産品の販売による地域産業の活性化、市北部隣接エリアとの連携の取組「天空の回廊」の推進が見込まれることから新たな「道の駅」の整備箇所のひとつとして選定します。



3. 市北部地域の地域活性化に向けた取組

（１）陶芸村構想（陶芸を活かしたまちづくり）

近年、陶芸センターを拠点として活動する陶芸家がアートによる地域づくりに積極的に関わり、陶器を活用した様々なイベントを開催するなど、地域住民とともに地域を元気にしていこうという機運が高まっています。

こうした取り組みの成果から、陶芸センターの利用者数が増加している一方で、現施設では、駐車場や施設機能が不足し、増加する利用者のニーズに十分な対応ができないなどの課題を抱えています。

一方で、活力ある地域を維持・拡大を図るためには、国内外に発信できる魅力的な地域づくりを進め、交流人口及び関係人口、更には移住人口を呼び込むことが求められています。

そこで、人気が高まっている「陶芸」を活かし、陶芸家と地域との連携を推進するとともに、国際性のある陶芸家のアイデアを地域づくり反映させるなど、本市ならではの地域づくりを推進し、将来的には世界に向けて発信できる地域の実現が期待されます。

（２）力強い農業づくり

本市では、お茶、米、ミカン、野菜など、市内の各地域の特色を生かした多様な農産物が生産されています。特に、お茶とミカンは、北部地域を中心に栽培され、本市の特産品として広くその名を高めてきました。

しかし、少子・高齢化に伴う、従事者の高齢化と後継者不足に加え、基幹作物であるお茶の価格低迷により、農業の深刻な衰退化が懸念されます。

このことから、農地所有者等の状況や意向を踏まえながら、県等と連携を図り、安定的な経営と地域農業への波及効果が見込まれる企業的経営体の誘致活動を推進していきます。

さらに、市北部地域において、より持続可能な力強い農業の確立を図るためには、地場農産物の消費拡大を図るための拠点機能の整備が求められます。

（３）施設間・地域間連携の推進

市北部地域には、中山間地域に観光交流を呼び込むため、大久保グラススキー場・キャンプ場、スポーツ・パル高根の郷、陶芸センター、瀬戸谷温泉ゆらく、白ふじの里、玉露の里、朝比奈いきいき交流センター及びたまゆらの計９ヵ所の活性化施設があり、大久保グラススキー場・キャンプ場では、平成 29 年度にコテージ、カフェ、温浴棟等の整備による機能強化が行われたほか、陶芸センターでは、講師陣の充実・体験陶芸の強化が行われ、９施設を合計した施設利用者数は年間 26 万 9 千人となっています。

多様な拠点施設がある市北部地域においては、各施設の強みをいかしつつ、弱みを補完し合うとともに、地域とのつながりを活かした協働事業に取り組むことで、より効果的かつ能率的な拠点運営を推進する必要があります。

（４）自然環境を活かした健康づくりの推進

市北部地域では、温暖な気候で雪が積もらない気候を活かし、一年を通じてランニングやハイキングなど、健康づくりでの観光交流に取り組んでおり、また、3月には、本市を代表するスポーツイベントである「ふじえだマラソン」を開催しています。

新型コロナウイルスの影響下における北部地域は、豊かな自然の中で安全・安心にスポーツや余暇などを楽しめる場として、身近な場所への旅行「マイクロツーリズム」が注目され、加えて、健康志向の高まりを背景に、人との距離が十分に保てる空間（中山間地域）におけるヘルスツーリズムの拡大が期待できます。

今後には、社会ニーズの変化に応じた、陶芸や温泉、自然、農業など多様な地域資源に健康の視点を加えたヘルスツーリズムの推進による、更なる交流拡大が求められます。

（５）地域経済の好循環の創出

本市では、様々な施策の展開により交流人口がもたらす消費活動が地域経済の活性化につながる一定の成果を生み出していますが、持続可能な地域経営の確立には、農業や観光、産業、健康などの地域の多様な主体との力強い連携によって、消費や雇用などを含めた地域経済の更なる好循環を生み出していく必要があります。

また、来訪・リピーター・短期滞在・二地域居住・移住という人の流れの観点からも、市北部地域の知名度向上は必要不可欠であり、農業体験などを含めた観光面を強化する必要があります。

（６）集落生活圏の維持

市北部地域の集落では、少子高齢化を背景に生活雑貨や生鮮食品等を販売する店舗の閉店が続いています。また、残る店舗の多くも高齢者が運営していることから、今後には生活サービス機能の深刻な低下が想定されます。

このような課題に対応し、地域住民が暮らし続けられるようするためには、住民が主体となって、生活利便性の維持・向上、雇用創出・所得向上、さらには移住促進など、暮らしを守るための取り組みを進める必要があります。

（７）更なる防災体制の強化

市北部地域では、災害時に集落の孤立が予想されており、平常時から地域連携の強化を図る体制づくりが求められます。

今後に発生が危惧される南海トラフ地震や台風、局地的豪雨当による土砂災害や風水害に備えるため、また、広域交通ネットワークを活かし、道路利用者を含めた防災・減災対策を着実に進めていくことが必要です。

4. 道の駅整備の目的

市北部地域では、農業を基幹産業として、茶を中心に、ミカン等の果樹、イチゴ、椎茸などの多様な作物が栽培され、地域を縦断する瀬戸川流域には、恵まれた自然環境に加え、歴史的資源、芸術・伝統文化をはじめとする豊富な地域資源があり、各処において都市との交流が盛んに行われています。

また、市北部地域の更なる活性化には、人気が高まっている「陶芸」を活かし、生涯学習の場づくり等の推進により、新たな雇用を創出するとともに、農業面では、農産物の収穫体験や滞在型市民農園等の農業と観光を組み合わせるビジネスモデルの構築を推進し、地域産業の活性化も求められます。

今後には、本市の観光資源が多く点在する瀬戸谷地域は、主要地方道藤枝黒俣線（県道）が横断する県中部北部地域の観光エリアに抜けるルートにあたり、国道1号藤枝バイパスの4車線化により、広域交通環境が格段に向上することが想定されます。

さらに、マイクロツーリズムやヘルスツーリズムのニーズの高まりを受けて、こうした志向を持つ層をターゲットにした機能や仕掛けを備え、より多様な目的での来訪を促し、域内経済の好循環の創出につなげることが強く期待されます。

このような中、島田市や静岡市とも繋がる主要地方道藤枝黒俣線（県道）沿い、本郷地内に立地する「瀬戸谷温泉ゆらく」付近に、老朽化や利用者増による「藤枝市陶芸センター」の建替・移転計画を進め、さらには瀬戸谷温泉ゆらく内にある農産物直売事業の拡大等も視野に入れ、休憩機能、市内外への情報（魅力）発信機能等を有した新たな交流拠点を形成し、国レベルでの認知度アップ、県内の設置状況、多機能を有する休憩施設等の観点から「道の駅」としての整備を進めます。

また、道の駅の整備に際しては、市北部地域の豊富な地域資源を最大限に活かすため、「地域間交流の活性化」や「地域産業の活性化」、「生活の利便性の向上」、「交通利便性の向上」、「コミュニティの向上」、「防災力の向上」を図るため、道の駅「（仮）せとや」の整備に向け、次の目的を設定します。

「地域間交流の活性化」「地域産業の活性化」「生活の利便性の向上」
「交通利便性の向上」「コミュニティの向上」「防災力の向上」



道の駅「（仮称）せとや」整備の目的

陶芸村構想の
拠点づくり

農業の持続性を確保
する仕組みづくり

交流拡大につなげる
発信、生活と防災の
拠点づくり

自然環境の保全と活用、
健康拠点づくり

5. 道の駅整備コンセプト

基本理念は、本市の特徴と課題、目指すべき姿を踏まえ、市北部地域における幅広い課題解決を実現するため、第2次藤枝市中山間地域活性化基本計画に掲げる基本理念に従い、「元気あふれる藤枝のふるさと」とします。

また、道の駅整備により、本市のみならず県中部北部地域における交流人口・関係人口、更には定住人口の拡大を実現するため、以下の整備コンセプト及び基本方針を設定します。

元気あふれる藤枝のふるさと

現状

- | | | | |
|---|--|---|--|
| <ul style="list-style-type: none"> 人口減少と少子高齢化が継続 農業者の高齢化や担い手の減少 耕作放棄地の発生 | <ul style="list-style-type: none"> 道路・公共交通が生活の基礎的条件 地方への関心の高まり コロナ禍における移動制限 | <ul style="list-style-type: none"> 集落の基本的機能の維持への不安 風水害・土砂災害のリスク | <ul style="list-style-type: none"> 陶芸への人気の高まり 伝統文化の後継者不足 暮らし続けるための生活機能の低下 |
|---|--|---|--|

道の駅機能を活かした地域づくりに必要な視点

視点

視点1	視点2	視点3	視点4	視点5	視点6	視点7
<ul style="list-style-type: none"> 陶芸を活かした地域づくり 新たな陶芸拠点の整備 	<ul style="list-style-type: none"> 持続可能な農業の確立 地元農産物の消費拡大 	<ul style="list-style-type: none"> 各拠点機能の強化 施設・地域間連携の推進 	<ul style="list-style-type: none"> 地域の魅力再認識と発信 健康志向の高まり 	<ul style="list-style-type: none"> 多様な主体との連携 地域経済の好循環 	<ul style="list-style-type: none"> 新旧東名、空港に近接 藤枝バイパス4車線化 	<ul style="list-style-type: none"> 生活機能の維持 大規模災害への備え

目的

- 陶芸村構想の拠点づくり
- 農業の持続性を確保する仕組みづくり
- 交流拡大につなげる発信、生活と防災の拠点づくり
- 自然環境の保全と活用、健康の拠点づくり

道の駅整備コンセプト

元気呼び込む「志太・天空の回廊」の玄関口

基本方針

<p>1</p> <p>陶芸を中心とした独自の文化芸術を育み、賑わいと雇用を創出する場 (陶芸村構想の拠点)</p>	<p>2</p> <p>豊かな農業を活用し、交流の促進と地域への愛着を醸成する場</p>	<p>3</p> <p>北部地域の回遊拠点・生活と防災の拠点づくりを促進する場</p>	<p>4</p> <p>清流瀬戸川や周辺環境を守り活用し、健康づくりを促進する場</p>
---	---	--	---

中山間(北部)地域の活性化

基本方針1：陶芸を中心とした独自の文化芸術を育み、賑わいと雇用を創出する場（陶芸村構想の拠点）



藤枝市陶芸センターでは、国内外で活躍する陶芸家が指導しており、年間9、607人（令和元年度）が体験利用する施設で、子どもから大人、障害の有無を問わず、誰もが楽しめる陶芸ワークショップを実施するなど、今後の発展と成長が期待される施設です。

このことから、「陶芸」を地域の宝として捉え、施設間や地域間における多彩な連携の核として活用し、文化芸術のある地域として住みたくなる・活動したくなる価値を高め、暮らしの場と雇用の場の確保による持続可能な地域づくりを図る「陶芸村構想」の実現を目指しています。

一方、陶芸センターは、利用者が増加から手狭になり、加えて、老朽化が著しく進み、さらに土石流の警戒区域であることから、「瀬戸谷温泉ゆらく」周辺に移転し、陶芸村構想の拠点施設として新たに整備する計画です。

また、拠点施設には、陶芸家の創作場所や陶芸家と市民が交流できる場などの機能を新たに加えるとともに、地域の空き家を住居やアトリエなどに活用し、働く場が隣接する暮らし環境を整えるなど、地域全体を芸術文化活動に取り組みやすい環境にしていきます。

さらに、地域資源である「茶」を活かし、茶器の制作ワークショップや、陶芸作品を器にしたお茶カフェなど、「地域資源」と「陶芸」を掛け合わせた誘客に取り組みます。



現在の陶芸センター



体験室・作品置場



乾燥室



作品展示室



釉薬室



抹茶かき氷

基本方針2：豊かな農業を活用し、交流の促進と地域への愛着を醸成する場

2
食の安全を
守り、
持続可能な
農業をつくる

8
力強い
地域産業と
多様な働き方
を生み出す

瀬戸谷地域は、農林産物（茶、みかん、椎茸など）の生産やブルーベリー狩り、いちご狩りなどの体験活動が活発な地域であり、「瀬戸谷温泉ゆらく」に併設する農産物直売所「ちよっくら」は、売上は増加傾向にあります。そのため、保管・衛生機能の整った農産物直売所を整備し、農作物等の安定した出荷先となることで、生産量の増加や所得向上に取り組みます。

また、近隣には農産物の加工を行う施設もあることから、安定した商品の販売を行う場の確保により新しい加工品の開発、6次産業化の推進に繋がり地元への「愛着」や「誇り」を醸成する機会を提供するとともに、地域の農産物の魅力を広く市内外に発信するなど、地域産業の活性化に取り組みます。



瀬戸谷温泉ゆらく（農産物直売所）



店舗内



抹茶

基本方針3：北部地域の回遊拠点・生活と防災の拠点づくりを促進する場



市北部地域の瀬戸谷では、大久保グラススキー場やキャンプ場、国体に利用したスポーツ・パル高根の郷（ライフル射撃場）、陶芸センター、瀬戸谷温泉ゆらく、藤の瀬会館（地区交流センター）などの賑わい施設が県道沿いに立地しており、一年を通じて多くの訪問者があります。

主要地方道藤枝黒俣線（県道）を国道1号藤枝バイパス谷稲葉 IC から約10km 進むと年間約17万人の利用がある瀬戸谷温泉ゆらくが運営されています。また、瀬戸谷温泉ゆらくには、JR藤枝駅と瀬戸谷地域を結ぶ重要なバス路線藤枝駅ゆらく線と地域内をつなぐ大久保上滝沢線の結節点になっており、地域の重要な足であるとともに、東海自然歩道や東海の名瀑のひとつに数えられる宇嶺の滝、おれっぴ大久保などの観光資源への移動手段となっています。

また、県道を東方面に進むと静岡市（オクシズ地域の南端）、島田市北部地域につながっており、接続する島田市川根町笹間地区では、国際陶芸フェスティバルが隔年で開催され、約70名の陶芸家が訪れ、展示や制作ワークショップが行われています。

県道を西側に進むと島田市伊久美地区に接続し、活性化施設やまゆり等があり、さらに西に進んだ大井川を北上した県道沿いには、道の駅「川根温泉」、道の駅「フォーシなかがわね茶茗館」があります。

移転する陶芸センターを瀬戸谷温泉ゆらくと併せ、道の駅として一体的に整備することにより、道路休憩施設としてだけでなく、“天空の回廊※”を構成する交流拠点施設の連携による地域間交流の活性化、拠点強化による路線バスの交通利便性の向上はかるとともに、地域の生活や仕事を支えるための住民主体の取組体制づくりや利便性の高い拠点づくりに取り組みます。

※ 「天空の回廊」とは、島田市川根・伊久美及び藤枝市瀬戸谷地域にある交流拠点施設で構成される「地域資源を活かしたツーリズム推進会議」が実施する広域交流推進事業であり、本市からは、陶芸センター、大久保キャンプ場等が参加している。



おれっぴ大久保
グラススキー場・キャンプ場



瀬戸谷温泉 バス停
自主運行バス（コロケバス）



島田市川根町笹間
ささま国際陶芸祭

基本方針4：清流瀬戸川を守り活用し、健康づくりを促進する場

3
誰もが健康で
元気な
まちをつくる6
安全・安心な
水を提供する14
河川の水質
向上と
廃プラ対策を
推進する15
豊かな自然を
守り共生する
まちをつくる

瀬戸谷地域には、市最北部の高根山を源流とした瀬戸川の清流が中心を流れ、地域農業（稲作など）や生活にとって無くてはならない水源となっています。瀬戸川上流部にはアマゴ、中流部にはアユ、オイカワやヨシノボリなどが生息し、多様な淡水魚が生息できる自然環境が残っています。

また、瀬戸川流域は、緑豊かな自然が残されており、瀬戸川とその周辺が一体となって恵まれた里山の環境や景観が形成されています。

こうした環境に触れる自然体験などを通して、その持続性を高める意識を醸成し、行動につなげていくことが期待されています。また、最近のヘルスツーリズムの拡大とあいまって、身近で豊かな自然環境の中を訪れ、心のリフレッシュや体を動かすことを楽しむ志向が高まっています。

ついでに、環境や健康への関心が高い層をターゲットに、自然体験や健康づくりの機会を提供し、多様な来訪目的に答えていきます。また、瀬戸谷温泉ゆらく開業に合わせ河川空間に整備した親水公園が隣接することから、川辺のウォーキングやランニング、さらには水遊びなどの自然体験を楽しむ場づくりに取り組みます。

加えて、温泉や陶芸におけるリラックスセッション等の体験プログラムの開発、“ちょくら”での新鮮な地野菜の提供などと結び付け、さらには大久保キャンプ場をはじめとする地域活性化施設などと連携し、自然体験・健康づくりの起点としての訴求力を高め、より多くの集客につなげていきます。



親水護岸 2007年3月完成



瀬戸川左岸から右岸を望む

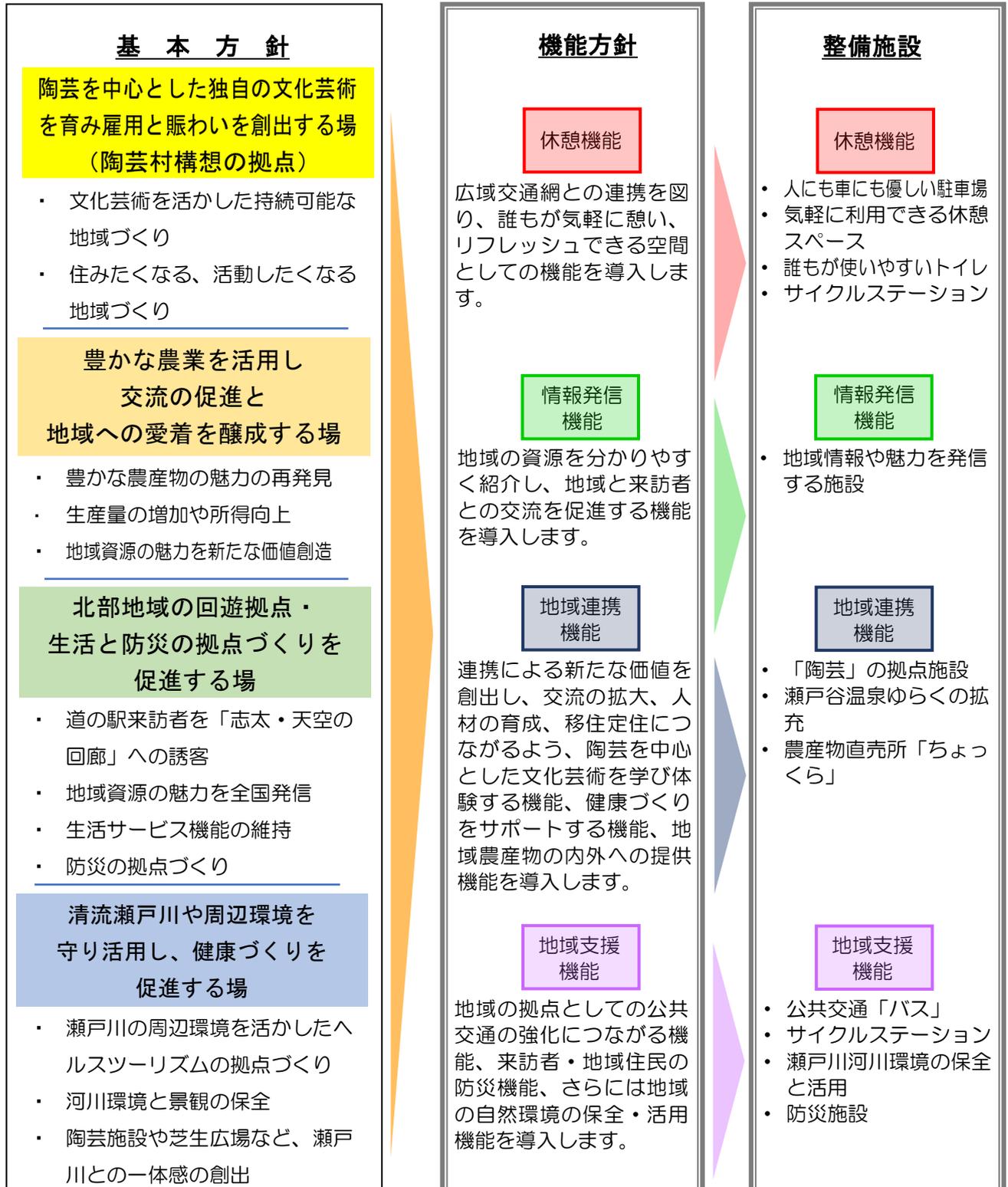


瀬戸川活用のイメージ

6. 道の駅導入機能の方針と整備施設

(1) 機能の方針

道の駅の基本方針を踏まえ、その実現のため次の機能方針に基づき、整備施設の検討を進めます。



(2) 休憩機能

① 人にも車にもやさしい駐車場

- ・ 障害のある人をはじめ、子育て家族が利用しやすいよう、屋根付き優先駐車スペースの整備や簡単に駐車できるように動線や駐車スペースを整備します。また、大型自動車の駐車スペースを確保します。
- ・ 駐車スペースには極力段差をなくし、人が歩きやすく、車も運転しやすい駐車場を整備するとともに、サインや看板等はユニバーサルデザインに配慮します。
- ・ 今後の電気自動車のさらなる普及に備え、充電スポットを整備します。

【身障者用駐車場、段差のない通路】



身障者用駐車 イメージ



バリアフリー イメージ

【電気自動車充電駐車場】



② 気軽に利用できる休憩スペース（広場）

- ・ 子どもたちをターゲットにした地元由来の製材を使用した遊具（アスレチック）の整備を図ります。
- ・ ベンチやテーブル、遊具、芝生広場を設置し、道の駅を訪れた人々が屋外でも気軽に休憩できる場所を広く確保するとともに、生産者が農産物をPRする活動を支援するイベントスペースとして活用できる多目的広場としての活用を図ります。
- ・ 災害時には、道路利用者が避難場所として利用できる多目的広場とするなど、広域防災機能を兼ね備えた活用を図ります。

【かまどベンチ】



【多目的広場】



- ③ 誰もが使いやすく、24時間利用できるトイレ
- ・ 乳幼児をもつ子育て家族が安心して道の駅を利用できるように、授乳室やオムツ換えスペースを設け、明るく、清潔で、使いやすく、安心して利用できる利用者に配慮したトイレを整備します。
 - ・ 周辺道路の利用者や、施設利用者の規模に応じた便器数を整備します。



【多機能トイレ】

- ④ サイクルステーション
- ・ 主要地方道藤枝黒俣線北部山間部は、ロードバイクで上り坂を楽しむ人が多数訪れてくれるため、サイクリストのための休憩場として自転車の駐輪スペースやサイクルサポート機能の充実を図ります。
 - ・ バスや車で訪れる人が、自然に恵まれた里山を巡れるよう、ロードバイクを含むレンタサイクル機能の充実を図ります。

(3) 情報発信機能

- ① 地域の多様な情報や魅力を発信する施設
- ・ 道の駅を訪れた人々に北部地域の観光・イベント情報などを提供するほか、Wi-Fiを備えた施設を整備し、使いやすく分かりやすく発信します。
 - ・ 地域の自然環境や文化的・歴史的資源の魅力の発信や地域おこし協力隊をはじめとした地域で活躍する人材の活動状況をお知らせするスペースを整備します。
 - ・ 災害発生時には、道路利用者、地域住民、道路管理者に対して災害発生状況等の情報提供できる機能を整備します。

【周辺を含めた情報発信】



情報提供 イメージ



周辺施設情報発信 イメージ

(4) 地域連携機能

① 陶芸を核とした拠点施設

- ・ 地域資源として発展が期待される「陶芸」を活かした地域づくりを推進するため、様々な人が陶芸体験できる場とともに、陶芸を通じた地域づくりの拠点なる施設機能の整備を図ります。また、地域と連携して活動する陶芸家の作品展示や販売ができる場を整備し、陶芸家の創作活動を支援します。
- ・ 整備する施設は、陶芸を通じたまちむら交流の拡大とともに、地域雇用を創出する場とするため、ICTを活用した陶芸情報の発信や陶芸体験等の観光商品化を支援する機能、藤枝茶を提供するカフェなどの機能を備えた拠点とします。
- ・ さらに、幅広いニーズを掘り起こし来訪を拡大するため、陶芸を通じたリラクゼーションなどの体験プログラムやお茶カフェと合せた“くつろぎ空間”の提供などに取り組みます。



作品づくり イメージ



交流 イメージ



オープンカフェ イメージ

② 瀬戸谷温泉「ゆらく」施設の拡充

- ・ 温泉利用者も含めた来訪者の利便性に配慮するとともに、瀬戸谷温泉ゆらくと道の駅が一体的となるゾーニングとします。
- ・ 今後想定される老朽化した施設の大規模な修繕に際しては、道の駅と一体的かつ清流瀬戸川の環境景観を活かせる瀬戸谷温泉ゆらくとなるよう施設のリニューアルを検討します。
- ・ 施設内や中庭などにおけるヨガやストレッチといった体験プログラムなどを開発・展開し、温泉と併せ健康づくりの拠点としての機能の充実や発信力の強化に取り組みます。



瀬戸谷温泉「ゆらく」源泉井戸



瀬戸谷温泉「ゆらく」中庭

③ 農産物直売所「ちょっくら」

- ・ 地産地消の拠点として消費者や地域ニーズに対応するため、豊富な品そろえができる空間を備えた農産物直売施設の整備を図ります。また、旬の農作物をPRするイベント等の開催が可能な施設配置とします。
- ・ 農業者の高齢化が進んでいる現状を踏まえ、道の駅（直売所）を核とする、農産物収穫体験や滞在型市民農園等の観光と農業を組み合わせたビジネスモデルの構築を検討するとともに、企業的経営体との連携も視野に新しい農業の担い手の育成を図ります。
- ・ 地元農産物の生産拡大を図るため、生産者の創意工夫（加工等）が反映できる仕組みづくりを進めます。
- ・ 農業の多面的機能（環境保全、防災、農村文化の継承など）を発揮する役割を担う地域の生産者の意欲を高め、直売所への出荷量の拡大を図ります。
- ・ 多様な品目が栽培されている本市の農業の特徴を活かし、「せとやコロック」に次ぐ、新たな加工品の開発販売促進を図ります。

【農産物直売所】



農産物陳列 イメージ



加工品陳列 イメージ



食品配置 イメージ



イベント イメージ



シイタケ入りコロック（B級ご当地グルメ）

(5) 地域支援機能

① 公共交通（バス）

- ・ JR 藤枝駅（中心市街地）と市北部地域を結ぶ公共交通の重要な結節点として機能の充実を図ります。
- ・ 多様な交通ニーズ（デマンドバス、買い物支援、スクールバス、小型モビリティ等）に対応した移動手段を提供するステーションとします。



② 瀬戸川河川環境の保全と活用

- ・ 施設利用者が憩いやうるおいを感じる豊かな自然環境を有する瀬戸川の景観・環境を整え、利用者の満足度を高めるよう対応します。
- ・ 自然を体感できるワーケーションの環境整備により、利用する人がリフレッシュ効果を感じられる空間を創出します。
- ・ 瀬戸川の河川空間を官民協働で活用するミズベリング拠点として他の地区と連携を図ります。
- ・ 隣接する親水公園や遊歩道などの河川空間を始めとする周辺の自然環境等を活用し、ウォーキングやランニング、水遊びなどの自然体験や健康づくりの拠点となるよう環境整備やプログラムの開発に取り組めます。

③ 防災施設

- ・ 道路利用者の一時避難場所としての役割を担うため、非常用食糧や毛布を備えた防災倉庫とともに、飲料水確保のための井戸やタンク設置の検討をします。
- ・ 道の駅のトイレや情報発信場所等の電源確保のための非常用発電機を設置します。



7. 道の駅候補地エリア

(1) エリアの検討

整備予定地を踏まえ、「比較的容易にまとまった土地の確保が可能な場所」を条件に、瀬戸谷温泉ゆらく周辺をエリアとして抽出します。



(2) ゾーニング検討

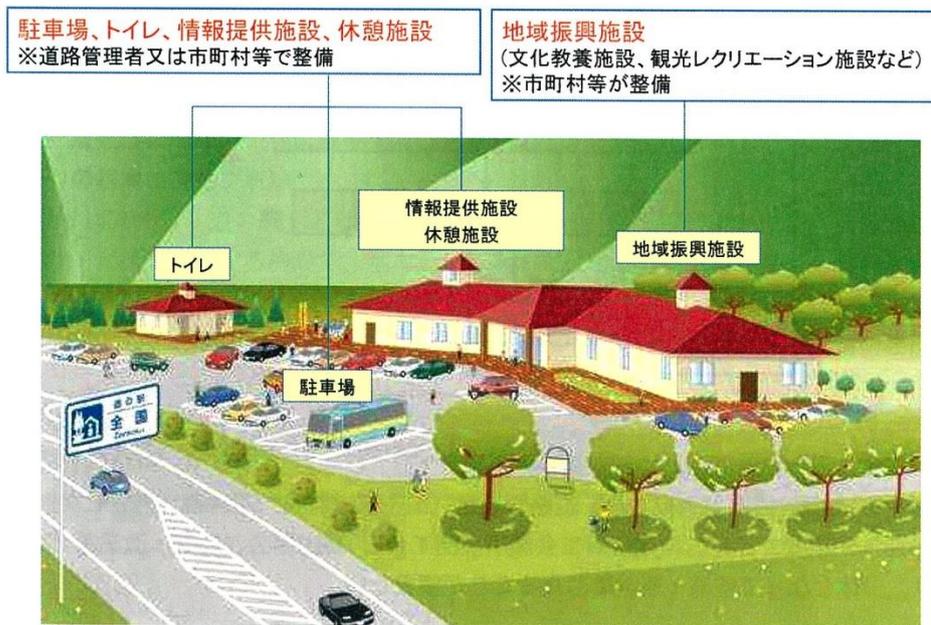
ゾーニングの方向性にあたっては、道の駅の目的である「地域振興」と「快適な道路環境の形成」を踏まえ、以下の通りとします。

- ・ 陶芸センター、農産物直売所、休憩機能は、既存の瀬戸谷温泉ゆらくと可能な限り一体的となる配置とします。
- ・ 休憩機能は、道路利用者に分かり易く休憩しやすい場所に配置し、農産物直売所への利用者動線が図られた配置とします。
- ・ 駐車場は、道路側から出入りがしやすく配置するとともに、各施設への移動動線に配慮します。
- ・ 陶芸センターは、静かな作陶環境を確保するため、瀬戸川をはじめとする自然が溢れる周辺景観と一体感が生まれる配置とします。
- ・ 農産物直売所は、周辺空間を活かし、動の空間として賑わいの生まれる配置とします。
- ・ 農産物直売所は、管理運営面の観点から、納品する農業者等の作業がスムーズに進む配置とします。
- ・ 農産物直売所は、瀬戸谷温泉ゆらくからの利用者動線が図られたものとし、一体的な利用が図られる配置とします。

8. 道の駅概要

道の駅は、「道路利用者への安全で快適な道路交通環境の提供」と「地域の振興に寄与」を目的とし、道路利用者のための「休憩機能」、道路利用者や地域の方々のための「情報発信機能」、道の駅をきっかけに“まち”と“まち”が手を結び活力ある地域づくりを共に行うための「地域の連携機能」の3つの機能を併せ持つ、国土交通省により登録された休憩施設です。

令和2年7月時点の全国登録数は、1,180箇所であり、地域の特性にあわせて様々な機能を持ち合わせ、地域の活性化、地域課題の解決に寄与する地域拠点として注目されています。



【道の駅の機能】

※国土交通省ホームページより

「道の駅」の目的

- ・道路利用者への安全で快適な道路交通環境の提供
- ・地域の振興に寄与

「道の駅」の機能

休憩機能

- ・24時間、無料で利用できる駐車場・トイレ

情報発信機能

- ・道路情報、地域の観光情報、緊急医療情報などを提供

地域連携機能

- ・文化教養施設、観光レクリエーション施設などの地域振興施設

「道の駅」の基本コンセプト

地域とともにつくる
、個性豊かな
にぎわいの場



災害時は、防災
機能を発現

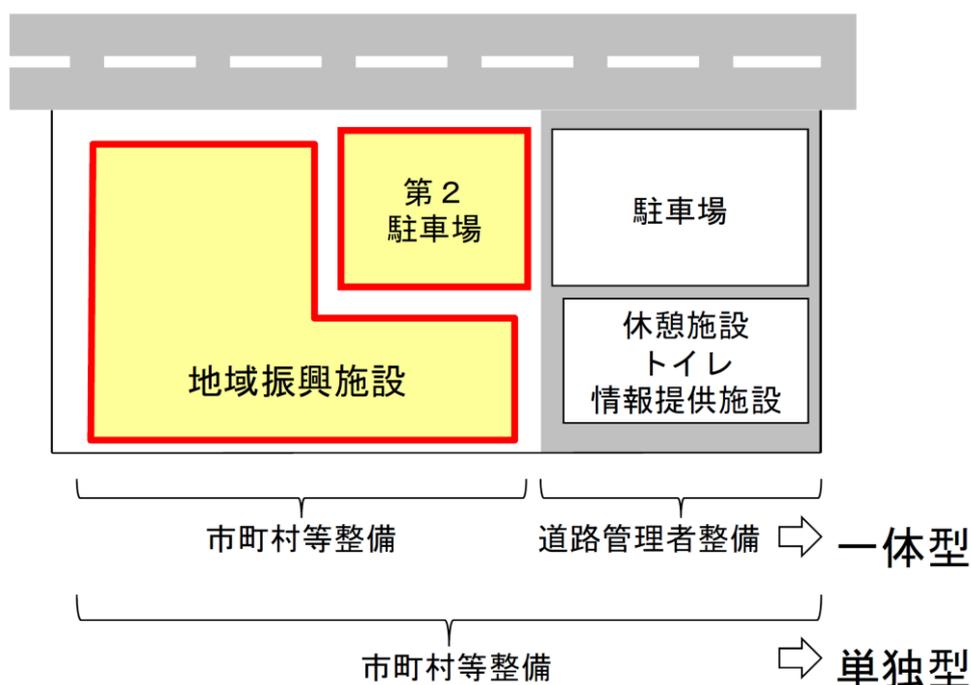
9. 道の駅の整備・管理運営手法

(1) 道の駅の整備主体及び整備手法

道の駅の整備は、道路管理者と市町等との相互協力によって進められるものであるため、その手法は、導入施設の整備を道路管理者、市町等のどちらが行うのかによって、以下のような二つに分類されます。

静岡県内の道の駅における整備手法について「単独型」での整備手法が数多く採用されています。そのため、今後、道の駅の整備にあたっては、「単独型」で整備を進めていくとともに、道路管理者等の関係機関との調整を進めていく必要があります。

【道の駅の整備主体と整備内容】



※国土交通省HPより

整備主体	地方自治体、道路管理者、公益法人等	
	一体型	単独型
整備手法	駐車場・トイレ・情報発信施設の一部を道路管理者が整備、その他を設置者（整備主体）が整備を行う	道の駅を構成するすべてを設置者（整備主体）が整備を行う。
近隣道の駅の整備手法	「宇津ノ谷峠」「掛川」 「玉露の里」	「川根温泉」「フォーレなかかわね茶茗館」「奥大井音戯の郷」

（２）管理運営方式**①直営方式（自治体直営）**

自治体が直接「道の駅」の管理運営を行う。

②民間主体の運営方式（業務委託）

自治体が直営で行う業務を、業務ごとに民間事業者に委託して管理運営を行う。

③民間主体の運営方式（指定管理者）

道の駅施設全体の管理運営業務として、自治体が、民間事業者や公共的団体などに施設の管理運営を代行させる。

【道の駅の管理運営手法】

分類	管理運営手法	運営主体
公設公営	市直営	市
公設民営	業務委託	民間事業者
	指定管理	第3セクター、民間事業者

静岡県内の「道の駅」では、指定管理者制度による第3セクターでの管理運営形態が多く採用されています。

道の駅には、ひと・もの・情報が一元的に集まる機能を活用し、休憩施設、情報発信、地域の活性化、文化芸術の体験学びの場を創るための施設です。このため、道の駅は公益事業・収益事業の両面を持った施設になります。持続可能な運営を考えると収益性や採算の確保が必要となってくることから、様々なノウハウを持ち地域の特性を活かすためにも、民間の活力をできる限り活用することが求められます。

(3) 管理運営主体の比較

管理運営主体の比較を踏まえ、地域との連携により独自性のある事業展開が期待できる「指定管理者（民間企業）」が管理運営手法に最も適しているとし、この方針に基づき具体的に進めていきます。

【運営主体比較】

運営主体	特 徴	課 題
市	<ul style="list-style-type: none"> ・市が主要部分を直接的に運営する組織となる。 ・公益性に優れ、地元との関わりや協力体制を強くすることができる。 ・市の拠点としての性格を持たせることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・駅長などの人的有能性に大きく左右される。 ・企業体としての実績を持たないことから、管理、運営ノウハウの不足や労務管理および財務面でうまく運営できないことがある。 ・定期的な施設の追加投資を確保できるかどうかポイントとなる。
民間事業者 (業務委託)	<ul style="list-style-type: none"> ・市が直営で行う業務を業務ごとに個別に民間主体に委託して管理運営を行う。 ・業務ごとに専門性を活かした管理運営が行える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・業務ごとに委託先が異なることもあり意思の疎通が図りにくい。 ・施設全体の管理運営の責任が曖昧になることがある。 ・収益事業には不向きな面がある。
第3セクター (指定管理者)	<ul style="list-style-type: none"> ・道の駅の運営を目的として、行政と民間企業等の共同出資によって、設立される組織。 ・行政と民間企業等の連携が図りやすく、地域活性化に直接的な効果のある公益的な事業については、高い効果を発揮するものとなる。 ・公共と民間企業等との意思の疎通が図りやすい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・事業遂行上、損失が発生した場合には、行政による補填を要することが懸念され、行政負担が継続的に増える場合がある。
民間事業者 (指定管理者)	<ul style="list-style-type: none"> ・民間企業やNPO法人、また各種団体、企業組合などの組織による運営となる。 ・元来の運営経験による、小売や流通などに関する知識・経験を有しており、利用者ニーズに柔軟に対応できる可能性が高い。 ・民間事業の経験を有した経営努力により収益性を期待できる。 ・指定管理者の経験を有する地元事業者による地域と密接な連携による管理運営が期待できる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・組織によっては、経営を重視することが想定され、サービス機能の融通性に劣ることなどが懸念される。 ・民間事業者によっては、公共性や地元との関わりや協力体制が薄れることがある。